BOM for Windows Ver.5.0 SR1 リリースノート

このドキュメントには、BOM Ver5.0 SR1 に関する最新情報が記載されています。

■■ 対応 OS の増加 ■■

対応 SP と OS が増えました。

■■ 機能追加・改良 ■■

■■ 不具合修正 ■■

■■ 注意・制限事項 ■■

■■ 更新履歴 ■■

- 2008 年 03 月 18 日 BOM for Windows Ver.5.0 アップデートパッチ公開
- 2008 年 07 月 01 日 BOM for Windows Ver.5.0 イベントログ監視 修正モジュール公開
- 2008 年 07 月 22 日 BOM for Windows Ver.5.0 SR1 リリースによる改定

■■　対応 OS の増加　■■

対応 SP と OS が増えました。

- Windows XP Professional　日本語版(SP3)
- Windows Storage Server 2003

■■　機能追加・改良　■■

1.必須導入コンポーネント

- 標準設定で、必ず BOM5.0 マネージャがインストールされるようになりました。

2.インストール時の手軽さ

- インストール時にアカウントを設定するだけで監視に必要な権限が付与されるようになりました。意図してカスタマイズする以外には、インストール後のポリシー設定操作を行う必要がなくなりました。
- 旧バージョンでは、ローカル監視の実行アカウントを BOM5.0 マネージャから変更できませんでしたが、SR1 では自由に設定できるように変更しました。
- BOM5.0 マネージャからアーカイブサーバーとの接続テストを行う機能を実装しました。

3.メンテナンスのしやすさ

- 旧バージョンでは、ログ、ヒストリなどの蓄積ファイルの削除が必要な場合、エクスプローラ上で削除する必要がありました。SR1 ではBOM5.0 マネージャのGUIの上から削除できるようになりました。
- 設定一覧出力を XML 形式で出力するように変更しました。
- インストールされたバージョンがモジュール単位に確認できるようになりました。アップデートしたバージョンについては、コントロールパネルのアプリケーションの追加と削除で確認できます。モジュール単位のバージョン確認はコントロールパネルのバージョンタブで確認できます。
- アーカイブサーバーのパフォーマンス向上インデックス張り替え機能を追加し、長期データ蓄積した後でのアーカイブコンソールでのレスポンスの改善が随時行えるようになりました。

4.操作のしやすさ

- 全インスタンス一括開始・停止機能が追加され、複数インスタンス（代理監視を多数している場合等）の場合に、一度に開始、停止ができるようになりました。
- コントロールパネルから個別指定での BOM 監視サービス・BOM アーカイブサービスの登録/解除を可能にしました。
- テンプレート画面を見直し、見やすく内容がわかりやすい画面にしました。
- テキストログ監視、イベントログ監視で、正規表現による条件しぼりこみの条件文字数を 256 文字から 1024 文字に変更し、条件の指定の幅が広がりました。

5.セキュリティ面の対応

- お客様の状況に合わせて、SMTP/SNMP/POP3/BOM ヘルパーの各ポート番号を、Well Known Port を含めて自由に設定できる様変更しました。

- 管理者モードでインスタンスへ接続している際の、無操作時のタイムアウト時間をコントロールパネルで設定できるようになりました。

6.機能追加

- 複数の同名プロセスがあった場合にも監視に必要な識別ができるようになりました。
- USB ディスクやリムーバブルディスク等、OS の起動後にマウントされたボリュームも正常に監視可能になりました。
- 評価版でローカル監視と代理監視を同時にお試しいただくために、評価版ライセンスを複数運用できるように変更しました。
- Oracle オプションが、Oracle11g に対応しました。

■■　不具合修正　■■

1.全般

- 集中監視コンソール、アーカイブサービス、BOM 5.0 マネージャなどから同一ログにアクセスしている場合、ログがロックされているため監視結果ログ及びアクション結果ログの書き込みが失敗する場合がありました。これをリトライすることで回避するように修正しました。
- アーカイブマネージャ、BOM ログビューアでデータのソート順によってグラフ表示が変わる現象がありましたが、正常にグラフ表示するように修正しました。
- ステータスビューアを起動した状態で OS の再起動を行うと、ワトソンエラーが発生する可能性がありましたが、この不具合を修正しワトソンエラーの発生を回避しました。
- BOM 5.0 マネージャや集中監視コンソールからの接続時に、ヘルパーサービスが異常終了しマネージャ側ではメッセージ「バージョン不一致のためサーバに接続できません。」が出力される可能性がありましが、この不具合を修正しました。

2.ログ関連

- 通知ログ及びアクションログの保存件数が、実際には 500 件しか保存されませんでしたが、マニュアルの通り 5000 件保存されるように修正しました。
- ログ一覧出力機能において、以下の不具合が発生する可能性がありましたが、正常に表示されるように修正しました。
  - ✓ ファイル一覧に既存のテキストファイルが表示されない。
  - ✓ ファイルの種類をプルダウンすると、文字化けしたリストが一覧に表示される。

3.監視項目関連

- プロセス監視で、存在しないプロセスの count を監視しても取得値が 0 にならず、N/A となってしまうため、監視結果値からプロセスの生死状態か判定できない不具合がありました。これを修正し、「インスタンスが存在しない場合も失敗としない」のチェックボックスが選択されており、かつ、監視対象のプロセスが存在しない場合にはプロセス数が 0 を返すよう修正しました。※ただし、カウンタ値が「Creating Process ID」と「ID Process」「Priority Base」の場合は今まで通り N/A を返します。
- イベントログ監視で、監視対象のイベントログの種類を「情報」と設定しても、正常に監視できない場合がありましたが、修正し正常に監視可能になりました。
- イベントログ監視(除外指定)、イベントログ監視(選択指定)、テキストログ監視で、「検出されたログをファイルへエクスポート」機能を使いエクスポートしたファイルが、UTF-8 で出力されるため、メール送信アクションで本文へ埋め込む設定を行っても正常に埋め込めませんでした。検出されたログを S-JIS 形式で出力し、それをメールに埋め込むようにし、検出対象が UTF-8 の文字コードであってもメールに埋め込み送信できるようになりました。

- 監視間隔を 5204 分(87 時間、4 日)以上に設定した場合、監視ログ表示を実行すると異常終了する不具合を修正しました。

- 監視項目を登録済みのインスタンスに監視設定を追加インポート時、設定済み監視項目が 100 項目以内の場合、追加インポート後の監視項目合計が 200 項目を超える場合でも警告は表示されませんでした。また、設定済み監視項目が 101 項目以上の場合は、追加インポート後の監視項目合計が 200 項目を超えない場合でも、警告が表示されていましたが、監視項目合計数が 200 を超えてしまう場合に警告ダイアログを出力するよう修正しました。また、インポート後の合計監視項目数が 200 項目を越える場合もインポート自体は可能ですが、監視サービスの開始はできません。

- プロセッサ監視、ディスクアクセス監視、ネットワークインターフェース監視で、しきい値に 101%以上の値を指定した場合、しきい値のグラフ(メモリ)表示が上 2 桁の値となっていました(101%を指定した場合、しきい値のグラフ(メモリ)表示は 10%を表示)。これを修正し、テキストボックスの値が 100 を超えた場合スライダーに 100 を表示するようになりました。

- ネットワークインターフェース監視のしきい値設定で、100 以上の値を設定できない様修正しました。

- プロセス監視のプロパティ画面において、「インスタンスが存在しない場合も失敗としない」チェックボックスを選択したにもかかわらず、監視が失敗していました。これを修正し、「インスタンスが存在しない場合も失敗としない」のチェックボックスが選択されている場合は、監視が失敗しないよう修正しました。

- パフォーマンスカウンタ監視で、OS 標準のパフォーマンスモニターでは値が取得可能であるにも拘らず、BOM では取得できない場合がありました。OS の環境によっては、パフォーマンスカウンタのインデックスが二重登録されている場合があり、その場合、BOM では現在値の取得結果が空白になり、監視自体も失敗していました。これを修正し、OS 標準のパフォーマンスモニターと同じく取得可能にしました。

- Ping 監視実行中に、他の PC からの Ping 等 ICMP パケットを受信した場合 Ping 監視の応答パケットと誤認識する可能性がありましたが、パケットの認識方法を厳密にすることにより正常に監視が行われるよう修正しました。

- 監視実行中に結果の取得以前に監視が切断されると、アクション結果がログに出力されない現象がありました。これを修正し、アクション結果を得る前に監視が切断された場合等、アクション実行から終了までのログを出力するよう修正しました。

4.通知・アクション関連

- 通知およびアクションの実行条件が複数項目で同時にヒットした場合、通知/アクションが 1 回のみ実行され残りはスキップされてしまう不具合を修正し、全ての通知/アクションが実行されるようになりました。

- ポップアップ通知の「通知先を指定」の入力制限を 64 文字から 256 文字に変更しました。

- SNMP トラップ送信で、インスタンス名・監視グループ名・監視項目名・アクション項目名・メッセージの長さによって、SNMP トラップ送信に失敗する可能性がありました。この問題に対し、SNMP トラップ送信の設定画面で入力制限を設け、インスタンス ID は 100 文字、グループ名は 127 文字、監視項目名は 127 文字、アクション項目名は 127 文字、メッセージは 255 文字とし、トラップの送信失敗が発生しないよう修正しました。

- 監視グループへの監視有効/無効を「一時的に反映する」が有効にならない不具合を修正しました。

- BOM マネージャと集中監視コンソールのカスタムアクションで XCOPY.EXE 等一部のコマンドが実行できない不具合を修正しました。

- カスタムアクションの環境変数 PATH に不正なパスが登録される不具合を修正しました。

5.コントロールパネル関連

- バックアップ/リストアの前後で Oracle オプション・アーカイブサービスのインストール構成が異なっている場合、リストア後に「設定」タブが表示されず、不適切なメッセージが表示される不具合を修正し、各オプションのインストール構成がバックアップ/リストアの前後で異なる場合に適切なメッセージを表示し、注意を促す様変更しました。

6.集中監視コンソール関連

- 前バージョンでは、集中監視コンソールの多重起動が別のデスクトップを意識しない仕様であったため、ローカルとリモートデスクトップ両方での多重起動が可能でしたが、多重起動している状態でインスタンスの削除や変更等を行うと、ファイルの読み込みエラーが発生する可能性がありました。
  これを修正し、ローカルとリモートデスクトップで集中監視コンソールの多重起動が検出された場合、警告メッセージを出力し起動処理を中止するように変更しました。

- 集中監視コンソールからのインスタンスポーリング時に、ヘルパーサービスあるいは監視サービスが稼働中にも関わらず停止状態として判断される場合がありました。
  この問題の回避のため、インスタンスポーリングに 3 回のリトライ処理を追加しました。また、リトライ後もインスタンスポーリングに失敗した場合はメッセージ「コンピュータがみつからないか、接続タイムアウトが発生しました。」を表示し、次回ポーリングを待機する様変更しました。

- 集中監視コンソールで、ローカルコンピュータ内の複数のインスタンスに対しポーリングをしている場合、2 つ目以降のインスタンスに対するポーリングの ON/OFF 設定が有効にならない不具合がありました。これを修正し、ローカルコンピュータ内の複数のインスタンスに対するポーリングを、個別に ON/OFF することが可能になりました。

- 集中監視コンソールを単独でインストールしたコンピュータで、ステータスビューアが起動できない問題を修正しました。

- インスタンスポーリングが ON になっている状態で、インスタンスの削除/変更が行えるように修正しました。

- ハングアップした BOM 4.0 をポーリングした際のタイムアウトに、約 10 分の時間が必要でしたが、本バージョンではタイムアウト時間を変更し約 3 分～5 分としました。

- 設定収集配布ツールで収集した「インスタンス一覧」のインポートを実行すると、同名のインスタンス表示名が登録されることがありました。インスタンス一覧のインポート時に、「コンピュータ」と「インスタンス ID」により「インスタンス表示名」を生成しこの問題を回避するよう変更しました。

- 集中監視コンソールのみを単独でインストールした環境で、インスタンスのインポート・エクスポートの実行がエラーとなる問題を修正しました。

- 集中監視コンソールのヘルプファイルを新たに追加し、単独でインストールした場合にヘルプが表示可能となりました。

7.アーカイブ関連

- アーカイブサーバーでバックアップを実行すると、データとトランザクションログのサイズが最小値に変更されてしまう問題を修正し、バックアップ後もファイルサイズが維持される様変更しました。

- アーカイブマネージャで 32768 件以上のデータをグラフ化した場合、エラーメッセージ「関数の引数が不正です。」が表示され、それ以上のグラフ化ができませんでした。これを修正し、32768 件以上のデータを正常にグラフ化できるように変更しました。

8.Oracle オプション関連

- Oracle オプションの「Oracle 接続設定」タブで、Oracle 10gR1 バージョンのクライアントが導入されているにもかかわらず、Oracle 10gR1 を選択するとエラーメッセージ「バージョンが一致しない」表示される不具合を修正しました。

- Oracle オプションで Oracle オプションのテンプレートを適用後、監視を開始するとエラーになる場合がありましたが、これを修正しました。

■■　注意・制限事項　■■

1.インストール関連

- CD－ROM を入れてもセットアップを選択する画面が起動しない場合には、エクスプローラを起動し BOM インストールメディアを挿入した CD ドライブから、autorun.hta をダブルクリックしてください。
- インストール時に、インストールを実行しているアカウントに管理者権限があるかどうかをチェックします。管理者権限がないアカウントでインストールしている場合、ランタイム エラー メッセージが表示されますので、管理者権限を持つアカウントでインストールを実行してください。
- Windows 2000 でインストールランチャー（autorun.hta）をお使いいただく場合、環境によっては空白ページの Internet Explorer が起動する場合がございますが、環境に依存した動作であり問題ございません。Internet Explorer を終了し、セットアップを進めてください。
- 標準設定では、ヘルパーサービス、監視サービス（エージェント）、BOM 5.0 マネージャがインストールされます。
- InstallShield Scripting Runtime がインストールされていない場合、次のようなエラーメッセージが表示されます。

  「1607:InstallShield Scripting Runtime をインストールできません。」

  この場合インストールを中断し、BOM 5.0¥BOM5 フォルダ内にある ISScript11.MSI を実行し、InstallShield Scripting Runtime をインストールしてください。その際、InstallShield より「1607:InstallShield Scripting Runtime をインストールできません」と表示される場合がありますが、この原因は以下の問題が考えられるので、以下の該当する原因を取り除いた上で、再度セットアップを行ってください。

  原因
  - ✧ subst コマンドを使用して作成した仮想ドライブからセットアップ プログラムを実行している。
  - ✧ ドライバ IDriver.exe が正しく登録されていない。
  - ✧ インストーラ Msiexec.exe が正しく登録されていない。
  - ✧ ユーザ アカウントに、C:¥Windows¥Installer フォルダにアクセスするためのアクセス許可がない。
  - ✧ 古いバージョンの Windows インストーラ エンジンが、現在利用できなくなっているネットワーク ドライブからインストールされた。
  - ✧ コンピュータにソフトウェアをインストールするためのアクセス許可がユーザー アカウントにない。
  - ✧ Windows インストーラ ベースの別のセットアップ プログラムが実行されている。
  - ✧ Windows XP が破損している。

2.BOM5.0 マネージャ

- 接続パスワードの初期値は、インストール時に変更していなければ bom（英数小文字）です。
- インスタンス名は必ず 15 文字までにしてください。使用できる文字は半角英数文字の a-z,A-Z,0-9,-（ハイフン）,_（アンダーバー）です。
- Windows Server 2000 上の BOM 5.0 マネージャと Windows Server 2003 上の BOM 5.0 マネージャではユーザーインターフェースが異なります。詳細はユーザーズマニュアルをご覧下さい。
- 評価ライセンスでは、製品版と同じ機能を備えた評価版を 30 日間試用できます。評価期間終了後に引き続き BOM for Windows Ver.5.0 を使用するためには、有効なライセンス キーを入力する必要があります。

- BOM の監視設定の変更を行うには、インスタンスを停止する必要があります。
- メール送信の SMTP 認証については、CRAM-MD5 方式と PLAIN 方式に対応していますが LOGIN 方式に対応しておりません。Exchange Server の場合、SMTP 認証は GSSAPI、NTLM、LOGIN の 3 種類のため、BOM 5.0 の本リリースでは Exchange の認証はサポートしておりません。
- 異なるスナップイン間での各設定のコピーはできません。
- 監視設定のエクスポートとインポート実行時のエクスポート先のフォルダは必ず、ログオンユーザが書き込める権限のあるフォルダを指定してください。書き込める権限のないユーザが書き出すとエラーになります。
- アクション項目は、実行時のステータスが等しければ ID の順に実行されるので、アクション項目 ID の変更機能はとても重要です。アクション項目の詳細についてはユーザーズマニュアルをご参照ください。
- パフォーマンス監視の中の Processor オブジェクトの Processor Queue Length は BOM の監視項目に応じて増加します。しきい値を設定するときには現在値の取得で監視の値を参考にして、設定してください。
- フォルダ・ファイル監視項目で「参照」ボタンをクリックして表示されるダイアログボックスは、通常の Explorer と挙動が異なります。フォルダを選択して「Enter」キーを押下した際、そのフォルダに階層を移動せず、[OK]ボタンの押下と同じ動作になります。
- サービス監視、ポート監視では他の監視項目と違い、文字列が監視結果となっているのでログのグラフ作成はできません。
- パフォーマンス監視等、監視取得値が 100%を超えるものがありますので、しきい値の入力は 100%以上入力できるようになっています。
- ディスクドライバによっては大量のファイル複製を行っている間にディスクアクセス監視した場合、監視値が不定期で N/A になることがあります。
- イベントログ監視でのテスト実行でのタイムアウト時間は 2 分です。
- シャットダウン等のメッセージ送信で変数をサポートしておりますが、変数を使ったメッセージ送信は、必ず事前テストを行って送信された内容をご確認ください。デフォルトの設定値を使用する場合には問題はありませんが、カスタマイズする場合には変数が変換されないことがあります。
- ネットワークインターフェース監視で、新規作成時には必ず NIC を選択してください。新規作成直後の初期値では選択されていません。
- ポップアップ通知アクションの[設定] タブで「通知先を指定(S)」には、IP アドレスを指定可能ですが、localhost および 127.0.0.1 は指定できません。
- ポップアップ通知アクション項目やシャットダウンアクション項目でメッセージの通知で、入力及び通知が可能な文字数が 895 文字に制限されました。BOM5.0 （SR 無し）でこの機能を使用し、且つ 895 文字を超えるメッセージを設定していた環境を SR1 にバージョンアップした場合、プロパティでは入力されている全てのメッセージを参照できますが、アクション実行時には 895 文字までしか通知されません。
- ポップアップ通知アクション項目やシャットダウンアクション項目の通知メッセージ中に予約済み変数を含む場合、変数を文字列として展開後の合計文字数が 895 文字を越えて送信することはできず、896 文字目以降は省略されます。
- BOM 5.0 マネージャを使用中にエラーダイアログ等ウィンドウが表示された場合、そのウィンドウを閉じない限りマウスを BOM 5.0 マネージャにフォーカスし設定を参照することができない場合があります。
- SNMP トラップ送信アクションで送信する時のグループ名、監視名、アクション名は 63 文字以内にしてください。また、カスタマイズ Trap のメッセージは 255 文字以内にしてください。この制限以上の文字を入力するとエラーになり、SNMP トラップが実行されません。

- 代理監視の場合の[SNMP トラップ送信] アクションは、代理監視元コンピュータではなく、代理監視コンピュータ先の IP アドレスが Agent Address として SNMP マネージャに通知されます。SNMP マネージャには代理監視先のコンピュータの IP アドレスも登録するようにしてください。

- 代理監視のユーザーアカウントがアドミニストレータグループに所属していない場合にはアプリケーションエラーが発生し、MMC が終了することがあります。その場合には、代理監視のユーザーアカウントをアドミニストレータグループに所属させてください。

- カスタムアクションでコンソールプログラムをカスタムアクションとして設定する場合には、BOM 監視サービスと BOM ヘルパーサービスのサービスアカウントをローカルシステムアカウントとし、デスクトップとの対話にチェックしてください。代理監視の場合にはコンソールプログラムは指定ができません。

- MMC ハングアップによる強制終了後、同インスタンスへの接続しようとしても「管理者モードはすでに使用されています」というエラーメッセージが表示され、接続できなくなります。対処方法は、BOMHelper サービスをコントロールパネルのサービスから再起動してください。なお、監視サービスは起動しているので監視は継続中です。

- ディスク I/O の高負荷時にディスクアクセス監視すると監視値が N/A や、大きいデータを表示することがあります。この原因はディスク関連のパフォーマンスデータによるものです。

- Windows XP マシン上でたとえば以下のパフォーマンス監視を作成中、マウスのホイールやキーボードの上下を用い、パフォーマンスオブジェクトに以下を選択した場合、まれにエラーが発生することがありますが監視そのものは正常に動作いたします。

    - ASP.NET Applications

    - ASP.NET

- ディスク容量監視では前回の値については端数を切り捨てて表示しています。たとえば 12.7GB の値であっても 12GB に表示されます。ご注意下さい。

- BOM5.0 設定収集配布ツールは Windows Server 2003 環境のみ動作します。Windows 2000 Server/AdvancedServer/Professional 及び Windows XP 環境では動作しません。

- テンプレートのインポート時に、インポートダイアログが開いた状態で BOM5Helper サービスが停止すると、正常にインポートができない場合があります。インポートダイアログが開いた状態で BOM5Helper サービスを停止しないようにご注意ください。

- WindowsXP Pro 及び Windows2000 でローカル監視の実行アカウントにローカルシステムアカウント以外を指定した場合、以下の制限事項がありますのでご注意ください。

<<条件>>

・WindowsXP 及び Windows2000 のローカル監視であること。
・監視サービスの監視に利用するアカウントにローカルシステムアカウント以外を指定していること。
・イベントログ監視（選択指定/除外指定共に）でセキュリティログを監視対象としていること。

<<現象>>

セキュリティログを監視対象にしているイベントログ監視のプロパティで、「ソース別サマリ」「イベントメッセージの取得」「テスト」のいずれかを実行した場合、エラーメッセージ【ハンドルが無効です】が表示され、正常に実行できません。
※尚、このエラーが表示されたイベントログ監視でも、実際の監視は正常に実行されます。
※本現象は、ローカル監視設定時のみの制限事項です。代理監視では発生しません。

<<回避方法>>

1. 該当インスタンスのプロパティを開き、監視に利用するアカウントを「ローカルシステムアカウント」に変更する。
2. セキュリティイベントログ監視を設定する
3. 該当インスタンスのプロパティを開き、監視に利用するアカウントに任意のアカウントを指定し、監視を開始。

3.BOM アーカイブコンソール/BOM アーカイブマネージャ

- アーカイブマネージャのアーカイブサーバー接続時のデフォルトパスワードは Bom5Archive です。
- アーカイブコンソールに 2 台以上のアーカイブサーバーを登録、接続している場合、アーカイブコンソール上でそのうちの 1 つの「BOM アーカイブ」のプロパティから表示設定を変更すると、他のすべてに接続された表示設定も変更されます。
- アーカイブマネージャで、ログのグラフ表示に切りかえる際、画面表示に初期化された画面が一瞬画面出力されますが、問題ありません。アーカイブマネージャでグラフ表示後、リザルトペインにフォーカスを当てると、グラフ表示メニューが見えなくなることがあります。グラフ表示メニューはスコープペインにフォーカスを戻すと再表示されます。
- アーカイブサーバーを BOM5.0 SR1 にアップグレードした環境で、BOM 5.0（SR 無し）のアーカイブマネージャを使用しアーカイブされている「NT イベントログ」を表示した場合、リザルトペインの「ユーザ･コンピュータ」欄が正しく表示されないことがあります。この現象を回避するためには、アーカイブサーバーとアーカイブマネージャのバージョンを一致させてください。
- アーカイブを設定した状態で、監視グループ/監視項目の ID を変更するとデータの連続性が保てません。ID を変更すると変更した ID のデータが前に設定されていたデータの続きとして保存されます。ID を変更し、データの連続性を保つには以下の手順で操作をしてください。
    1. アーカイブサービスを停止。
    2. アーカイブサーバーのユーティリティーでアーカイブサーバーのバックアップを実行。
    3. 新規にアーカイブサーバーを作成。
    4. 再度アーカイブサービスを起動。
- BOM アーカイブコンソールで、監視のヒストリを開いた際に表示される監視結果コードの表示形式が、BOM5.0 マネージャで表示される形式と異なっております。

4.オラクルオプション関連

- 各監視項目において接続設定行わずに監視を実行した場合、[ログ]-[ヒストリ]-[監視]に「パラメータ設定に失敗しました。」というメッセージが記述されます。また、そのエラーメッセージが出力された後、監視が無効になり、その後は監視が実行されません。必ず、監視項目を作成した後には、ログが連続で出力されるかをご確認下さい。もし、監視が行われていない場合には、接続設定を再度確認してください。
- ネットワーク上の別のサーバで運用されている Oracle のリモート監視には対応しておりません。
-

5.Citrix オプション関連

- WTS クライアント通知の詳細設定2で“0 件”の指定はできません。0 件を指定すると、エラーとなります。
